

令和8年度 教 育 計 画 愛南町立城辺中学校						学校番号 233	
校長名	加 洲 景	学級数	5 (2)	生徒数	112	教職員 数	14



重点目標	1 自己肯定感を育てる。(自分を認める) (1) 教職員は肯定的な眼差しを持ち、個々の良さや挑戦のプロセスを可視化し、認め・励ます指導を徹底する。 (2) 「間違えても大丈夫」という教室の雰囲気を教員が率先して作り、心理的な安心感の高い学級・学年づくりを推進する。 (3) 互いのがんばりや挑戦を共有し合う時間を設けて、仲間や教職員から認められる機会を作る。 2 対話力を育てる。(他者とつながる) (1) 授業の中で教員が「教え込む」時間を削り、生徒同士が問いを立て、議論する時間を毎時間確保する。 (2) 学年や教科の枠を超えた同僚性を発揮し、課題解決に取り組む「チームとしての姿」を生徒に見せる。 (3) 生徒を一人の人格として尊重し、目を見て話を聞く、最後まで遮らずに聞くといった基本的な態度を徹底する。 3 郷土愛を育てる。(社会・地域へ広がる) (1) 総合的な学習の時間を核として、地域を「生きた教材」として活用し、地域の達人（ゲストティーチャー）を積極的に招致する。 (2) 地域の課題を解決するためのプロジェクト型学習を年間計画に組み込み、成果物の実践や発表の場を設ける。 (3) 地域ボランティア団体や公民館等と連携し、生徒が「頼られる経験」をする場を積極的にプロデュースする。 4 働き方改革と連動した「学校運営の最適化」 (1) 連絡を報告から共有へ切り替え、会議の削減と定時退勤日を実施する。 (2) 重点目標の達成を重視して行事を見直し、統合・廃止・簡略化する。 (3) ICTの徹底活用により教職員が「生徒」と向き合う時間を増やす。
管理運営	1 人的管理：「服務規律」を人権意識の根幹と捉えた教職員組織の構築 (1) 相互承認に基づく服務規律の遵守とリスクマネジメント (2) 多様な視点を活かすための「対話型」報告・連絡・相談の推進 2 物的管理：人権と防災の視点を取り入れた環境整備 (1) 誰一人取り残さない「ユニバーサルデザイン（UD）」視点の環境美化 (2) 防災・安全機能を備えたスマートな施設管理 3 事務管理：共同学校事務室との「戦略的協働」による校務の最適化 (1) 予算配分について事務職員と密に連携し、教育効果を最大化する執行 (2) セキュリティ遵守を「自分事」とするための校内研修を実施
本校教育の特色	1 防災と人権を融合させた「自他の命を守り抜く力」の育成 (1) 人権尊重の視点に立った防災学習の推進 (2) いじめや差別を「心の災害」と捉え、公正・公平な集団づくりを推進 2 地域資源を活かした「社会参画型」キャリア・ボランティア教育 (1) 多様な生き方に触れ、人権感覚を磨く「地域交流プロジェクト」 (2) 「誰かの役に立つ」喜びを実感するボランティア活動の展開

重点目標	※ 重点目標及び重点項目等を記述する。
管理運営	※ 人的管理、物的管理、事務管理について、体制の確立や効率的な活用及び努力事項等を記述する。
本校教育の特色	※ 学校で受け継がれている文化や今後の展開等、各学校の特色について記述する。